

## (1) 昨年の活動を振り返って

1・平成23年11月20日

新屋鹿嶋祭保存会発足 会員50名

2・平成24年2月19日

新屋鹿嶋祭保存会全体会議開催・事業部、広報部、調査研究部、実技部、製作部の5部会設置。各部の主な活動内容と具現化について、製作部は「①・鹿嶋人形、鹿嶋船、その他祭りに関する製作物の調査・研究を行う。②・各町内の鹿嶋人形、鹿嶋船など製作物に関する調査・研究・交流・指導を行う。③・鹿嶋船、鹿嶋人形の歴史的意義、時代の変化など調査・研究・発表。(調査研究部の企画運営と関連性)」と定められ、同時に、メンバーが配置され、各部に於いて部長、副部長を選出した。

3・平成24年4月15日

第1回の部会を開催した。出席9名(伊藤会長、藤枝事務局長、部会員7名)(欠席3名)協議事項を下記のとおりとして協議した。

## ① 確認事項について

- ・ 鹿嶋人形、鹿嶋船、その他祭りに関する製作物の調査・研究について
- ・ 各町内の鹿嶋人形・鹿嶋船など製作物に関する調査・研究・交流・指導について
- ・ 鹿嶋船・鹿嶋人形の歴史的意義・時代の変化など調査・研究・発表(調査研究部の企画運営と関連性)

が主な活動内容と具現化についてであることを確認した。引き続き、各事項について協議した。

## ② 鹿嶋人形、鹿嶋船、その他祭りに関する製作物の調査・研究について

## ③ 各町内の鹿嶋人形・鹿嶋船など製作物に関する調査・研究・交流・指導について

## ④ 鹿嶋船・鹿嶋人形の歴史的意義・時代の変化など調査・研究・発表(調査研究部の企画運営と関連性)

## ⑤ 今後の製作部会のスケジュールなどについて

## ⑥ その他

## 協議の概要

- ・ 部長、柴田副部長が撮影した“秋田市民族芸能伝承館(ねぶり流し館)”に展示している鹿嶋船等や昨年の一部の町内鹿嶋船写真を参考として提示した。
- ・ 平成55年発刊の著者川口弥之助氏による。著書「新屋の語り草」から抜粋し「鹿嶋さん」を取り敢えず伝統的な鹿嶋祭りとして、議論の出発点とした。その結果、現在の鹿嶋祭りも基本的には当時と概ね変わらない形で行われていることが認識出来た。

- ・ 鹿嶋船の場合、町内での製作段階から個人々の認識差により、時として侃侃諤諤の協議、議論を経ながら、製作にこぎつけているのが現状である。

従って、各町内とも出来上がった船には、強い矜持とこだわりとが込められており、仮に、今後、部会で考えられた基準(一般的な)となるべき船を提示できたとしても、それに倣うとは到底考えられない。

- ・ 各町内とも、自信作の鹿嶋船を祭りの当日、あらかじめ決められた順番に従い鎮守の杜「日吉神社」に奉納、お祓いを受け、祈願をしている。

その一方で、各町内からは、他町内の船についても出来栄を鑑賞する等をして、今後の参考にしたいと考えているものの、現在の奉納の順番制からすれば一部は可能であるが、全てについては不可能なため、別的手段を講じてでもその機会を設けられないものか。

- ・ 船の後方には飾り人形が上がる。これが鹿嶋船の見せどころで、各町内とも工夫をこらし、時代風刺や流行など叡智を傾けたオリジナリティ溢れる自信作の出し物で、見物人、観光で訪れた客のみならず、各町内の携わった関係者のもっとも興味をそそられるところでもある。そのことと併せて、この行事が子供達のための「鹿嶋祭り」であることを内外に強くアピールできる絶好の機会と捉えることが出来る。

その出来栄の度合いを審査する「コンテスト等」を実施することによって、祭りがより広く周知が可能となると同時に、製作当事者の大きな励みとモチベーションアップが期待できる。

- ・ 船の製作にあたり「ふなべり」として使うがづぎの採取や入手が年々困難を増しており四苦八苦している。時として買い求めたり、場合によっては調達が不可となる町内も出てきておることから、代替品で凌いだとも伺っている。

今後、そのような事態に備えて対応策を検討しておく必要があるのでは。

また、文献「鹿嶋さん」には吹き流旗に鹿嶋大明神や家内安全等を書き入れ鹿嶋船に数多く差し込んで、船の中央には御堂を乗せ、帆を立てる、帆には鹿嶋丸と標し、また、船の船先には黒いもくが垂れ下がっているとなっているが、概ねそのとおりに製作されている。

- ・ 鹿嶋人形の製作についても、日新児童館で別紙「鹿嶋人形のつくりかた」を、また、婦人会でも、会員を対象とした同様の講習会を開催しており、いずれの講習会も参加者が多く、そのまま良いのではとなった。

- ・ 伝統から、鹿嶋船は子供達の息災と無事な成長を祈りながら、雄物川から大海原に押し流す、所謂「鹿島流し」を行っていたが、環境保全上から禁止となり、流す用の「小さな船」を製作し、行っている町内もあれば、今でも、伝統そのままに行っている町内や、終われば即、解体処分としている町内等々多様である。

従って、保存会では、多方面からの意見を参考として、伝統か?環境か?の難しい判断を迫られる場合も想定される。と同時に、仮にそれに代わる方法が

考えられたとしても、画一化への反発も予想される。最も適宜適切な方策について議論を深める必要があると思われる。

- ・ 鹿嶋船、鹿嶋人形や祭りに関する製作物について、伝統的、基本的な形はどのようなかを文献を通して調査した結果、各町内とも概ねその通りに製作されていると分かった。
- ・ そんな中で、今後、製作部会としては、各町内の鹿嶋船の製作工程の最初から完成までの過程を写真撮影依頼と提供をお願いし、それを参考に、最も一般的な鹿嶋船の製作について研究(勉強)をすべきなのではとの結論を得た。  
伊藤保存会会長から発言があり、他の部会議でも同主旨の内容が報告されていることから、鹿嶋祭りの前に、役員会を開催し各部長も出席することとして、そこで協議し合意できれば、各町内にその旨をお願いすべきである。との指針を得られた。

4・ 平成24年5月下旬～6月10日鹿嶋祭当日

- ・ 部員各位が所属町内の鹿嶋船等の製作に携わった。

5・ 平成24年7月9日

第2回製作部会を開催した。(藤枝事務局長、製作部員10名・計11名・欠席1名)協議事項を下記のとおりとして協議した。

- ① 製作部会今年度の活動内容について
- ② 製作部会活動の総括について
- ③ 次年度の活動計画について
- ④ その他

協議の概要

① 省略 (第1回会議で報告済み)

② 「総括」については以下のとおり。

- ・ 新屋鹿嶋祭保存会を立ち上げたことで、何かをやってくれる！との期待感が大きく祭りの「鹿嶋船」制作に例年にも増して力が込められたと実感していた。  
しかし、具体的に表れたものが少なくインパクトに乏しかったことは否めない、そのことから、会員拡大を図ることが難しく、結果として繋がらなかった。  
今後、写真コンクール等の形としてあるイベントを期待する。

- ・ 各町内の鹿嶋船の全てを、関係者に広く見てもらう機会があれば、制作に携った者の大きな励みとなり、また、祭りの盛り上がりも大いに期待されるので、その方法として西中学校や西部グラウンドに集結、展示する等の案も出された。

しかし、当該場所は町内によっては運航上遠隔すぎる等の問題から、無理があるのではなかった。

なお、過去に一度だけ西部グラウンドで行われた経緯もあるようだと言言があっ

たものの勘違いと分かり訂正された。

- ・ 「新屋鹿嶋祭」を秋田市の無形民俗文化財に指定を受けていない要因、原因を調査し、受けられるよう研究すべきではないか。

その原因に、鹿嶋船、武者人形、鹿嶋人形等々、伝統の形が崩れている。とみなされている等があるようだが、いずれにしても原因を明らかにし指定が受けられるよう対処する必要があるのではとなった。

③ 次年度の活動計画(案)について

- ・ 今後、製作部会として、今回の鹿嶋祭で、各町内に撮影をお願いし提供された写真や事務局の分、合わせて町民に呼びかけ手持ちの古い写真の参考提出をお願いして、それらを基に(参考に)、最も一般的、標準的(最大公約数的)な「鹿嶋船」の形を研究(勉強)することを当面の目標とした。

- ・ そして将来的に、製作部会で考えた「鹿嶋船」を制作し、最終的に、適当な場所に展示することを目標とすることが確認された。

- 6・ 平成24年7月13日  
日吉神社会館において「三役及び各部会合同会議」が開催された。
- 7・ 平成24年7月29日  
日吉神社会館において「新屋鹿嶋祭保存会第2回定期総会」が開催された。
- 8・ 平成24年9月3日  
西部サービスセンターにおいて「三役・各部部長・副部長会議」が開催された。
- 9・ 平成24年9月24日  
西部サービスセンターにおいて「三役・各部会員合同会議」が開催された。
- 10・ 平成24年10月1日  
西部サービスセンターにおいて「新屋鹿嶋祭保存会・講演会」が開催された。
- 11・ 平成24年10月9日～11日「ウエスター祭り」保存会ブース準備作業を行う。  
平成24年10月12日～14日「ウエスター祭り」が開催される  
平成24年10月15日「ウエスター祭り」片付け作業
- 12・ 平成24年11月11日  
「新屋鹿嶋祭保存会」写真展開催準備作業
- 13・ 平成24年11月16日～12月14日  
「新屋鹿嶋祭保存会」写真展が秋田銀行新屋支店にて開催される。

(2) 今年の活動目標について

昨年、開催した第2回製作部会議(平成24年7月9日)に於いて、次年以降の活動計画(案)について、下記、結論が得られている。

- ① 今後、製作部会として、今回の鹿嶋祭で、各町内に撮影をお願いし提供された写真や事務局の分、合わせて町民に呼びかけ手持ちの古い写真の参考提出をお願いして、それらを基に(参考に)、最も一般的、標準的(最大公約数的)な「鹿嶋船」の形を研究(勉強)することを当面の目標とした。
- ② そして将来的に、製作部会で考えたサイズを縮小「鹿嶋船」を制作し、最終的に、適当な場所に展示することを目標とすることが確認された。

「参考資料」

- 1・ 昨年の鹿嶋祭写真を抜粋したアルバム「各町内制作・鹿嶋船」

(3) その他